<経済解析室ニュース> 平成28年10月31日

9月速報の鉱工業生産は前月比横ばいだが、本年第3四半期の生産は前期比1.1%と2期連続の上昇、在庫調整も大きく進展。10月、11月の先行きについては、大きな増産は想定しにくい結果。

平成28年9月の「生産」は、季節調整済指数97.8、前月比横ばいとなりました。この結果、本年第3四半期の鉱工業生産の指数値は97.4、前期比1.1%上昇となり、2期連続の生産前期比上昇となりました。前期比上昇幅も、第2四半期、4-6月期はプラス0.2%上昇に留まり、「辛うじて」上昇という程度でしたが、第3四半期の前期比伸び率は、比較的大きいものになったと言えるかと思えます。

9月の鉱工業生産を業種別にみると、速報15業種のうち7業種が生産前月上昇、8業種が生産低下でした。生産上昇業種の中では、最も寄与の大きかった「はん用・生産用・業務用機械工業」、それに次ぐ輸送機械工業の寄与が、他の5業種に比べて小さくなっています。

一方、9月の生産低下業種の中で、低下寄与が大きかったのは、情報通信機械工業と電子部品・デバイス工業でした。この2業種は、8月の生産上昇寄与の大きかった2業種で、9月に大きく反動減となりました。

さて、今年の7-9月期は生産増、出荷増となって、在庫も2期連続で前期末比低下となっています。また、10四半期ぶりに、在庫の前年同期末比もマイナスとなり、消費税率引き上げ後にたまってしまった在庫水準が確実に低下してきています（ただし、平成25年末の在庫水準105.7からすると、9月末の在庫指数111.0は、まだ高い）。

この結果、在庫循環図においても、7-9月期の在庫循環の進展は明らかで、既に「意図せざる在庫減局面」の半ばに達しており、今年の第2四半期と第3四半期で、在庫調整が一気に進んだようです。

向こう2か月の生産計画ですが、10月生産見込みの前月比は1.1%上昇が見込まれています。傾向的な予測誤差分を除外する加工をした伸び率を試算した結果では、前月比の方向が逆転し、10月の前月比はマイナス0.1%低下という計算結果となりました。この補正計算を踏まえれば、10月も9月実績と同じく、横ばい程度に近い結果になる可能性が高いと思われます。また、11月予測については、前月比2.1%上昇という生産計画となっています。

業種的に言えば、はん用・生産用・業務用機械工業と電子部品・デバイス工業の2業種によって生産計画が2か月連続で前月上昇となっています。ただ、はん用・生産用

・業務用機械工業は、実績とのズレが大きい業種であること、同様に下方へのズレの大きい情報通信機械工業の10月見込みの伸びが大きいこともあり、少なくとも10月については、実績段階で相当程度の下振れが予想されますので、やはり補正值前後の伸びにとどまるものと思われまし、11月についても多少の下振れを想定すべきものと思われまし。

このように、第3四半期の生産が2期連続前期比上昇で、在庫調整が確実に進展しており、今年1月の高い水準に近い生産水準が続くものの、先行きの製造業企業の生産意欲が必ずしも大きく伸びる様相でもないといった結果をも踏まえ、9月の鉱工業生産の基調判断は、「緩やかな持ち直しの動き」とし、8月から据え置きたいと思いまし。

◎結果概要のページ

http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/b2010_201609sj.html

◎参考図表集

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/reference/slide/result-iip-sanko-201609s.html>

◎鉱工業指数の仕組みと見方 入門スライド

http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/slide/20160511iip_nyuumon.html

○問合せ先

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

電話：03-3501-1511（代表）（内線2851）、03-3501-1644（直通）

FAX：03-3501-7775

E-MAIL：qqcebc@meti.go.jp